

『部落解放研究』執筆要項

1. 本文について

- (1) 論文原稿は「である」調で、史料等引用部分を含めて横書きとし、Word 等テキスト文書で作成するものとする。
- (2) タイトルおよび見出し、本文、図表・写真・史資料等、注、引用・参考文献を含めて、A4判(40字×40行)を1枚として、10～13枚程度(16,000～20,000字以内)とする。
- (3) 全角文字を使用し、「フォント:MS明朝」「フォントサイズ:10.5ポイント」とする。
- (4) 欧文、および算用数字は半角文字を使用する。字体は「century」。引用史料、および慣用的に漢数字で表記するもの等を除き、数字表記はアラビア数字を基本とする。
- (5) 余白は「上下左右30mm」とする。
- (6) 節は一 二 三 (全角 MS ゴシック 太字 12p)・・・、項は1 2 3 (全角 MS ゴシック 太字 10.5p)・・・、目は① ② ③ (MS ゴシック 太字 10.5p)・・・と示し、各節、各項、各目の間には1行のスペースを入れる。
- (7) 「注」は、該当箇所に「フォント・上付き」で挿入する。注釈文章は、最後に一括して掲載する。

2. 注釈、引用・参考文献について

- (1) 「注」は、該当箇所に「フォント・上付き」で挿入する。
- (2) 注釈文章は、最後に掲載する。「本文」と「注」の間には、1行のスペースを入れる。
「注」と「引用・参考文献」の間にも1行のスペースを入れる。
- (3) 注釈文章が2行以上になる場合は、2行目以降は1マスおとす。
- (4) 引用・参考文献の提示の仕方は、以下のいずれかを参考にして作成する。

① 「注釈」に入れ込む。以下、提示例。

注

- (1) 有田裕子『教育社会学』西洋館出版、1990年、123-134頁。
- (2) 東洋一郎「教育社会学の反省」山田太郎編『教育社会学講座Ⅰ 教育社会学の方法』南洋館出版、1990年、10-25頁。

- (3) 井上敏子「教育社会学の展望」『教育社会学研究』第50集、1990年、10頁。
- (4) 同上、12頁。
- (5) Maeda, Taichi “Schooling in Japan,” *American Journal of Sociology*, Vol.62, No.3,1990, pp.5-18.
- (6) 前掲「教育社会学の反省」、23頁。

② 「引用・参照文献」として別途提示する。

- ・引用文献の提示のしかた

「しかし、有田（1990）も強調しているように……」

「確かに、井上（1990、21-24頁）も指摘しているが……」

「……という調査結果もある（Honda1990a、井上1990）。」

「フリックによれば『……ではない』という（Frick 訳書2002）。」

- ・同一著者の同一年の文献については、（Honda1990a、1990b）のように a、b、c、……を付ける。
- ・欧文書誌・雑誌名は、斜体にする。
- ・文献は、邦文・欧文を含めてアルファベット順とし、以下の例に従って注の後にまとめて記載する。翻訳書・翻訳論文については、原典の書誌情報を記載する。

引用・参照文献

有田裕子（1990）『教育社会学』西洋館出版。

東洋一郎（1990）「教育社会学の反省」山田太郎編『教育社会学講座Ⅰ 教育社会学の方法』南洋館出版、10-25頁。

Chiba, Masao（1989）*Sociology of Education in Japan*, US Press.

Frick, Uwe（1995）*Qualitative forschung*, Rowohlt Taschenbuch Verlag GmbH.,（=小田博志ほか訳（2002）『質的研究入門－〈人間科学〉のための方法論』春秋社）。

Honda, Naoki（1990a）*Sociology of Education*, Tokyo Press.

Honda, Naoki（1990b）*Sociology of School*, Japan Press.

井上敏子（1990）「教育社会学の展望」『教育社会学研究』第50集、10-25頁。

Maeda, Taichi（1990）“Schooling in Japan,” *American Journal of Sociology*, Vol.62, No.3, pp.5-18.

Tachibana, Kaoru（1990）“Recent Trends in the Sociological Studies of Education,” T.

3. 年号表記について

- (1) 年号表記は、前近代については和暦（西暦）（例：天保4年（1833））、近代については西暦（和暦）（例：1873年（明治6））を原則とする。
- (2) 現代については、原則として西暦を用いる。

4. 図表、写真・史料、引用などについて

- (1) 図表が入る場合は、図と表にわけて、それぞれに通し番号をつける。図1、図2、図3・・・ 表1、表2、表3・・・
- (2) 図タイトルは「図の下」に、表タイトルは「表の上」につける。
- (3) インタビューの引用、史料の引用等については、前後1行空けたり、1マス下げたりして引用であることを明示する。

5. その他

- (1) 紀要掲載時には縦書きとなり、英数字等は、新聞等記事の縦書き仕様の表記となる。
- (2) 掲載可となった場合、掲載までに著者校正が1～2回ある。

論文タイトル〇〇〇 (MS ゴシック・太字・14 p)

1 節タイトル〇〇〇 (MS ゴシック・太字・12 p)

以下、章タイトルは2 3 4…。「節」と「節」、「節」と「項」の間は1行アケル。

～～～中国人の渡日の歴史をみると、古くは16世紀後半にまで遡ることができる⁽¹⁾。つまり、～～～

※注釈は「フォント・上付き・半角」で記す。

1 項タイトル〇〇〇 (MS ゴシック・太字・10.5 p)

以下、項タイトルは 1) 2) 3) …。「項」と「項」、「項」と「目」の間は1行アケル。

①目タイトル〇〇〇 (MS ゴシック・太字・10.5 p)

以下、目タイトルは ① ② ③…。「目」と「目」の間は1行アケル。

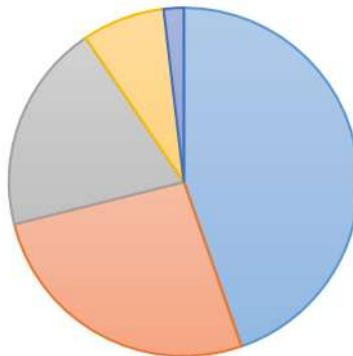


図1 グラフや写真・画像など (MS ゴシック・太字・10.5 p)

表1 表 (MS ゴシック・太字・10.5 p)

	2000年	2010年
●●●	30.2%	40.5%
◆◆◆	50.7%	42.2%

注 (MS ゴシック・太字・10.5p)

(1) 注の文章の様式は本文と同じ。() 内は全角数字。二行目以降は2文字分サゲル。

(2)

(3)

.....

(10)

(11)

引用文献 (MS ゴシック・太字・10.5p)

引用文献の表記については原稿執筆要項に記載している様式にしたがうこと。

掲載順については、①和文のみの場合は「あいうえお順」、②和文・英文等が混合している場合は「アルファベット順」または、③和文「あいうえお順」を掲載した後に、英文等「アルファベット順」とする。2行目以降は2文字分サゲル。

- ・ 1ページの文字設定を「40字×40行の1段組」(1枚・1,600字)とし、10～13頁程度(16,000～20,000字)とすること。
- ・ Word、一太郎、テキストファイル等で作成すること。
- ・ 余白の設定は「上下左右30mm」とすること。